

なっていて、水田化を目標にしているが、萱場地区のみは酪農経営をめざし県下でも優秀な成績をあげている。萱場地区は他の地区にくらべ有利な条件もそなわっているのだが、開拓部落における2つの農業経営が今後の今市開析扇状地の農業土地利用の指針をあらわしているように思われる。自然条件などからは酪農経営の方が望ましいし、萱場のように成功している所もあるが、現在水稲作は技術的にも商業的にも安全で、酪農のように資本の必要とか大きな失敗の危険性などが無いので、この地域にもっとも適した農業経営としてさらにその重要性を強めていくように思われる。

## 柏尾川流域の地理学的考察

高田和枝

調査地域は多摩丘陵南端部を刻む柏尾川流域とし、西に藤沢市に接し南に鎌倉市を含む横浜市の南部に位置する。この地域は丘陵内の谷底平野に水田が作られ、丘陵斜面や崖下の微高地には集落が見られる田園地帯であったが、京浜工業地帯と湘南地方の中間地帯にあるため、最近では住宅地化や工業地化の現象が著しく、一般住宅が増しているのは勿論であるが、水田地帯には主に工場が立並び、また丘陵上にはアパート群がそびえるようになった。このような最近の急激な変貌をただ変化しただけで眺めるだけでなく、卒論には調査地域を一つの単位として、その変貌をできるだけ網羅し、数量的にとらえると共に変貌によって発生した問題の発見を試みて、この地域の性格を出してみたいと思った。

卒論の内容構成は次の通りである。

### 第一章 柏尾川流域の概説

- ①位置・②自然・③産業・④集落と交通の発展

### 第二章 柏尾川流域の地形

- ①地形区分・②柏尾川・③沖積層

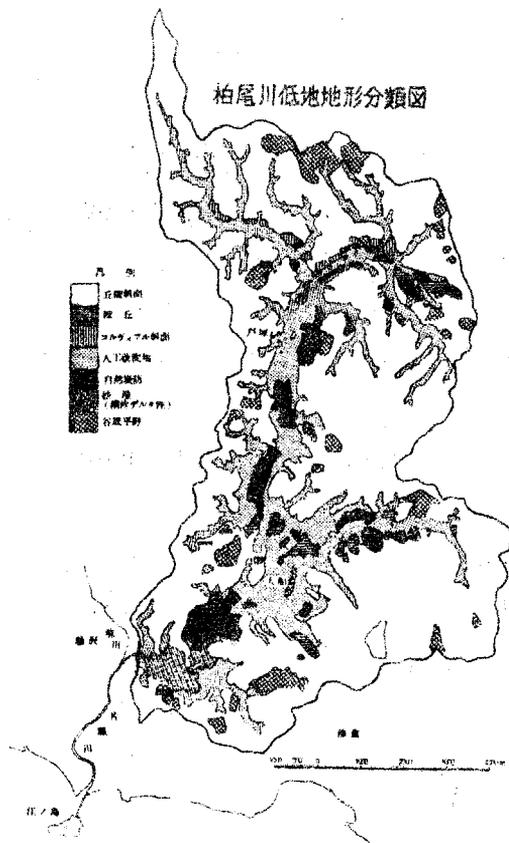
### 第三章 柏尾川低地の工業地化

- ①都市化・②工場の進出・③近郊農村の変動

### 第四章 水の害

- ①柏尾川の洪水・②洪水の特性・③水利用・④洪水の原因

### 第五章 まとめ



この地域の地形区分は次の通りに行った。

- ①丘陵斜面Ⅰ面。②丘陵斜面Ⅱ面。③段丘。
- ④コルヴィアル斜面。⑤谷底平野。⑥自然堤防。
- ⑦砂堆（潮汐デルタ性）。⑧人工改変地
- ⑨盛土地。⑩切取地

水田を埋立てて住宅・工場が立並んでいる谷底平野は、境川との合流点付近で兩岸に丘陵がせまり、湘南砂丘からの砂の供給を受けて谷の出口を塞がれて、一時は湖沼化したこともあると思われる。海成層の沖積層の上部に腐植層の発達が見られるのはそのためと思われ、また元来この地域の南部から三浦～房総半島にかけては隆起地帯であるから、南北に細長い谷底平野の傾斜はゆるくなり、腐植層の堆積も進んだと考えられる。そのためこの地域の重量のある建物は基礎工事の手を抜くと地盤沈下するという現象を引起している。またこの地域は傾斜がゆるく谷底平野で周囲を丘陵に囲まれているから、昔から柏尾川は氾濫しや

すかったが、最近遊水池の水田が埋立てられ、更に上水・工業用水として1日約8万トンが他地域から運ばれて来るので、少し強めの降雨があるとすぐ柏尾川は降水を吸収できなくなり、また丘陵上の大規模の宅地造成等も出水の原因の1つであり、平野面の住宅は年に2回は水に浸る所がある。

このように基礎工事や防水工事に費用がかかるのにもかかわらず工場群が東海道本線沿に宣伝を兼ねて立並び、その間や丘陵上に住宅が増加して行くのはこの地域が京浜工業地帯の延長部であり、太平洋ベルト地帯に含まれるからと思われる。この地域の農業は工場等の進出により耕地面積が減少しており、飯米確保のために残された水田は工場等の敷地造成の埋立てによって灌漑排水溝を埋立てられ、収量が減少しているから、営農手段より財産的傾向が強い。これらのベルト地帯としての問題を含みながら、工場進出は敷地の点で限界に来たので、これからは住宅の増加が更に見られ、住宅地域の中に工場が点在するようになると思われる。